

## スピード違反取締の97%はレーダー探知機じゃ避けられない!

～1万円をムダにしないために、知っておくべき4つのポイント～

### レーダー探知機を買うべき人、やめた方がいい人

レーダー探知機を付ければスピード違反で捕まらなくなる、ということはありません。

まずは、あなたが本当にレーダー探知機を買う必要があるのかどうか、あらためて考えましょう。これを知らずに買ってしまうと、ただの無駄遣いになってしまいます。

#### 買うべき人

あなたが以下のどれかに当てはまるなら、レーダー探知機を購入すべきです。

- ✓ 違反点数が多く、あと一步で免停なので、とにかく違反のリスクを下げたい
- ✓ オービス（スピード違反撮影カメラ）の場所が分からなくて不安
- ✓ 交通違反の防止だけでなく、OBD2による車両情報を見るのも大きな目的

なぜなら、あなたの目的とレーダー探知機が得意とする分野が一致しているからです。

ただし、本レポートをよくお読みいただき、レーダー探知機で対応できること・できないことをご理解いただいた上で、活用されることをオススメします。

#### やめた方がいい人

逆に、あなたが以下のどれかに当てはまるのなら、レーダー探知機を買ってもあまりメリットは得られません。

- ✓ オービスの場所は覚えているので、ネズミ取りの場所を知りたい
- ✓ パトカーや白バイが近付いてきたときに警告して欲しい
- ✓ （オービス以外の理由で）最近捕まってしまい、もう捕まりたくない
- ✓ レーダー探知機を付ければスピード違反で捕まることはないと思っている

なぜなら、レーダー探知機はネズミ取りやパトカーを探知することができないからです。

ネズミ取りやパトカーによる取締りを避けるには、安全運転を行い、スピード違反や取締りの仕組みを勉強して、あなた自身の力で違反しないように注意するしかありません。

### レーダー探知機最大の欠点：オービス以外の取締りには対応困難

レーダー探知機の最大の欠点は、「オービス以外のスピード違反取締りには対応しきれない」ということです。

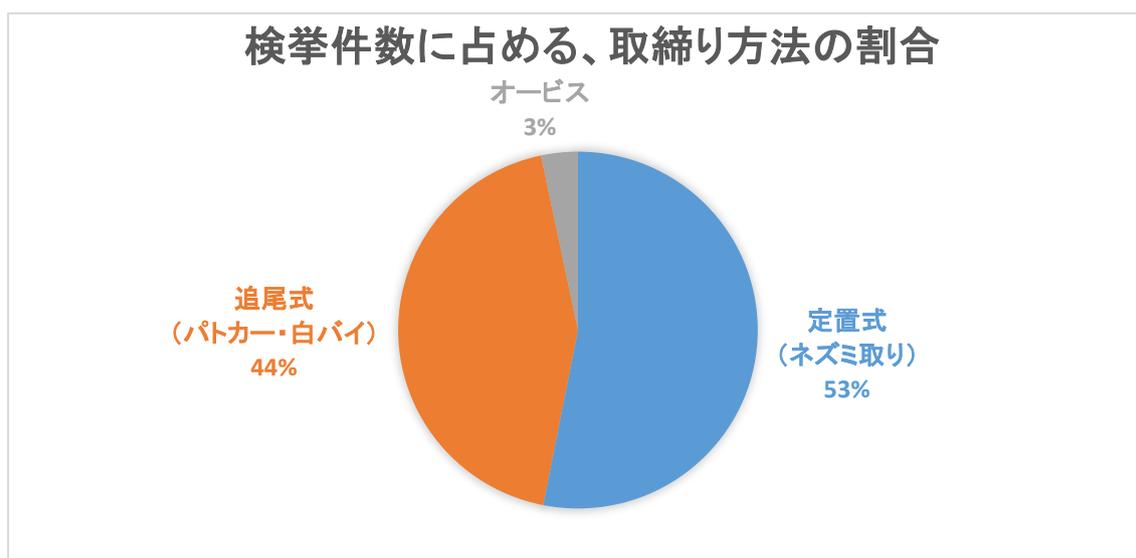
なぜそれが欠点かというと、スピード違反で検挙された人のうち、97%はオービス以外の取締りで検挙されているからです。

### 検挙件数の97%を占めるのは、ネズミ取りとパトカーによる取締り

スピード違反の取締りには、以下の3つ方法が使われます。

- ネズミ取り（警察官が道路脇に隠れてスピードを測定し、その先で違反車を停止させる）
- パトカー・白バイ（違反車を一定距離追跡し、スピード違反が確認できたら停止させる）
- オービス（大幅なスピード違反の車が通過したら自動的に撮影し、後日呼び出される）

そして、実際にスピード違反で検挙された件数に占める、取締り方法の割合は以下の通りです。（平成24年度に実施された約222万件の取締りに基づくデータ）



出典：警察庁「交通事故抑止に資する取締り・速度規制等の在り方に関する懇談会」資料

ご覧の通り、ほぼ全てのスピード違反はネズミ取りかパトカー/白バイにより検挙されていることが分かります。これが、レーダー探知機を過信してはいけない最大の理由です。

## レーダー探知機がネズミ取りやパトカーに対応できない理由

**レーダー探知機は取締りそのものを探知してくれるわけではありません。**

では何をしてくれるのかというと、「位置情報」と「レーダー波のキャッチ」という2つの方法により、取締りポイントに近付いていることを警報してくれるだけです。

### 「位置情報」と「レーダー波のキャッチ」とは

位置情報とは、「取締りポイントがどこにあるのか」という情報です。

原理としてはカーナビと一緒に、「東京都千代田区丸の内何丁目の何番にオービスがある」という情報が、レーダー探知機の中に登録されています。

レーダー波のキャッチとは、ネズミ取りなどでスピードを測定するために発信される電波を受信することです。電波が発信された＝取締りを行っている証拠、ということですね。

このような仕組みなので、**場所が固定されていて、常に作動しているオービスには大きな効果があります。**しかし、**場所や日時が変わるネズミ取りや、走り回っているパトカーには対応できません。**

ここでは、この2つの方法の弱点をさらに詳しく見ていくことで、対応できない理由を解説します。

### 位置情報の弱点

位置情報をベースにして出される警報には、3つの弱点があります。

- 警報が出ても、その時に実際に取締りが行われているとは限らない
- 結果として「空振り」が増えて、警報を無視するようになる
- 実際に取締りが行われる場所が100%網羅されているわけではない

警報が出ても、その時に実際に取締りが行われているとは限らない

ということかという、こんな情報があったとします。

「A 地点では、よくネズミ取りをやっているらしい」

「A 地点には、よく白バイが走っている」

だからといって、こうとは限りませんよね？

「今この瞬間、A 地点で取締りが行われている」

これと同じように、レーダー探知機には「よく取締りをしている場所」は登録されていますが、「今やっているかどうか」までは分かりません。

その理由は、登録されている取締りポイントの位置情報と、GPS で割り出した現在位置を照らし合わせ、自車が取締りポイントに近付いていくと警報を出すという仕組みだからです。

---

「空振り」が増えて、警報を無視するようになる

位置情報をベースに警報が出る結果、多くの「空振り」警報が出てきます。

空振りとは「警報が出たが、そこを通ったときには取締りをしていなかった」というケースです。

あまり空振りが多いと、「どうせ空振りだろう」と警報を気にしなくなってしまい、実際に取締りをしていたのに警報を無視して捕まってしまう…なんていうことが起きます。

なぜ空振りが起きるかという、登録されている取締りポイントは、あくまで「過去に取締りがあった場所」でしかないからです。

このため、運転をしているとあちこちで警報が出ますが、そこで実際に取締りが行われていることは希です。地域や時間帯により異なるものの、僕の場合は 100 回に 1 回とか、そういうレベルです。

実際に取り締りが行われる場所が 100%網羅されているわけではない

あらゆる取締りポイントを 100%網羅することは不可能です。

その理由は 2 つあります。

- 過去に取り締りがあった場所を 100%網羅するのは不可能
- 新しい取締りポイントは日々増えていく

メーカーとしても過去に取り締りがあった場所を 100%調べ上げることは不可能です。

メーカーも頑張って情報収集しているでしょうから、**主要なポイントは押さえられているとは思いますが、あなたが走る地域が完全にカバーされているとは限りません。**

また、取締りポイントは日々増えていきます。

なぜなら、同じ場所ではばかり取締りをしていて、いずれ場所を覚えられてしまい取締りの効果が落ちるので、警察も新しい場所を常に探しているからです。

**新しい取締りポイントは、メーカーがその場所を見つけ、レーダー探知機の更新データを用意し、あなたがデータ更新をしない限りは警報が出ません。**

#### レーダー波をキャッチすることの弱点

レーダー波をキャッチして出される警報には、2 つの弱点があります。

- レーダー波をキャッチしたときには、もう手遅れ
- 誤報が多く、警報を無視するようになる

手遅れとはどういうことかということ、**レーダー探知機がレーダー波をキャッチして警報を出した時には、すでに警察官はあなたが出していたスピードが分かっているということです。**

なぜなら、取締り用のレーダー波は一瞬発信するだけで、スピードの計測が完了するからです。警報が出てから慌てて減速しても、その先で「止まれ」の旗を持った警察官が現れます。

ものすごくラッキーな例外は、あなたの前を走っている車に向けられたレーダー波を、あなたのレーダー探知機がキャッチするというケースです。この時に限っては、事前に取り締りの存在を知ることができます。

しかし、もうひとつの弱点があります。それは誤報が多いことです。

レーダー波は一種の電波なので、取締りとは関係ない通信用の電波や、自動ドアから出される電波に反応して警報が出る場合があります。

高感度なレーダー探知機ほどこの傾向が強くなり、運転中に多くの警報が出てきます。すると警報が出て「どうせまた誤報だろ」と油断してしまい、実際の実績で捕まってしまう…ということが起きます。

レーダー探知機には誤警報をキャンセルする機能もありますが、警報が出ているその場で登録する必要があります。運転中に操作するのは危険ですし面倒なので、僕は一度もやったことがありません。

## まとめ

スピード違反者の97%はネズミ取りかパトカーにより検挙されています。

そして以下の4つの理由から、レーダー探知機を使ってネズミ取り・パトカーによる取締りを避けることは困難なので、レーダー探知機を過信してはいけません。

- 取締りそのものを探知するわけではないから
- 位置情報による警報が出て、その時に取締りをしているとは限らない
- レーダー式の取締りは、レーダー波をキャッチして警報が出たときにはすでに手遅れ
- 空振り・誤報が多く、警報を信用しなくなって油断する

このようなレーダー探知機の特徴をご理解いただいた上で、購入を検討してください。

もしあなたが、ネズミ取りやパトカーによる取締りを避けたいのであれば、レーダー探知機を過信せずに、あなた自身の力で違反しないように注意するしかありません。

たとえば、以下のような内容です。

- 何 km/h オーバーで走ると捕まるのか
- ネズミ取りやパトカーによる取締りはどんな方法で行われるのか
- どんな場所に取締りが多いのか…など

このような知識を身につけることができれば、たとえレーダー探知機が無くてもどんな場所が取締りポイントなのか見えてきますし、常に道路状況に気を配るようになるので、結果として安全運転にも繋がります。

追伸：

もし需要があるようでしたら、各種取締りの具体的な方法や、取り締まる基準を解説したレポートも作成しようと考えております。ご興味のある方は、こちらのフォームからご登録ください。事前にご登録いただいた方には、優先的にご案内いたします。

